

千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第35週 (8/28-9/3) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		35週	34週	33週	32週
小児科		18	18	18	16
眼科		5	5	4	3
インフルエンザ*		28	28	28	20
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
 下段:定点当たりの患者数
 「定点当たりの患者数」とは
 報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県				千葉県	
		注意報	8/28-9/3	8/21-8/27	8/14-8/20		8/7-8/13
			35週	34週	33週		32週
小児科	RSウイルス感染症	◎	48 2.67	26 1.44	11 0.61	11 0.69	225 1.69
	咽頭結膜熱		5 0.28	5 0.28	6 0.33	4 0.25	72 0.54
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		19 1.06	18 1.00	12 0.67	21 1.31	170 1.28
	感染性胃腸炎		70 3.89	44 2.44	39 2.17	44 2.75	317 2.38
	水痘		1 0.06	3 0.17	2 0.11	2 0.13	22 0.17
	手足口病	↓★★★	144 8.00	149 8.28	100 5.56	128 8.00	1023 7.69
	伝染性紅斑		2 0.11	0 0.00	1 0.06	0 0.00	3 0.02
	突発性発しん		17 0.94	15 0.83	14 0.78	10 0.63	62 0.47
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	ヘルパンギーナ	↓★	42 2.33	43 2.39	36 2.00	82 5.13	354 2.66
流行性耳下腺炎		5 0.28	7 0.39	2 0.11	2 0.13	24 0.18	
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		3 0.11	4 0.14	4 0.14	15 0.75	14 0.07
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎	◎	13 2.60	4 0.80	1 0.25	4 1.33	29 0.83
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.56
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(11件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査	結核	女性	50歳代	IGRA検査
結核	男性	50歳代	画像診断等	腸管出血性大腸菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	男性	60歳代	IGRA検査		男性	70歳代	
結核	男性	60歳代	病原体等の検出		女性	10歳未満	
結核	男性	70歳代	病原体等の検出等	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	女性	10歳未満	臨床決定	-	-	-	-

・第35週は、結核7件(155)、腸管出血性大腸菌感染症3件(23)、梅毒1件(23)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第35週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より大幅に増加し2.67となった。2004年から調査開始以降最多となった。

<手足口病> 前週より減少し8.00となった。流行発生警報開始基準値を上回ったままで過去10年の同時期と比べると多い。

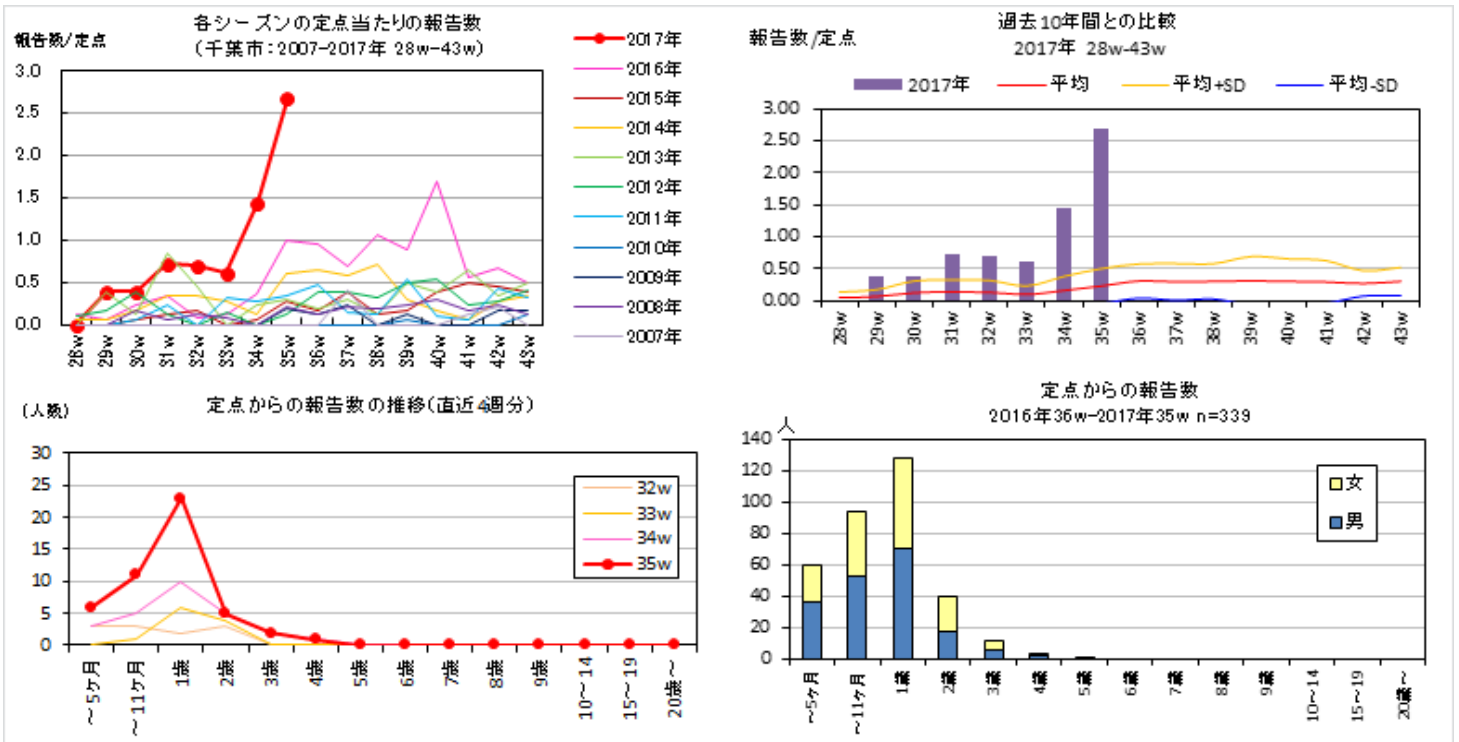
<ヘルパンギーナ> 前週より若干減少し2.33となった。流行発生警報終了基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多い。

<流行性角結膜炎> 前週より増加し2.60となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

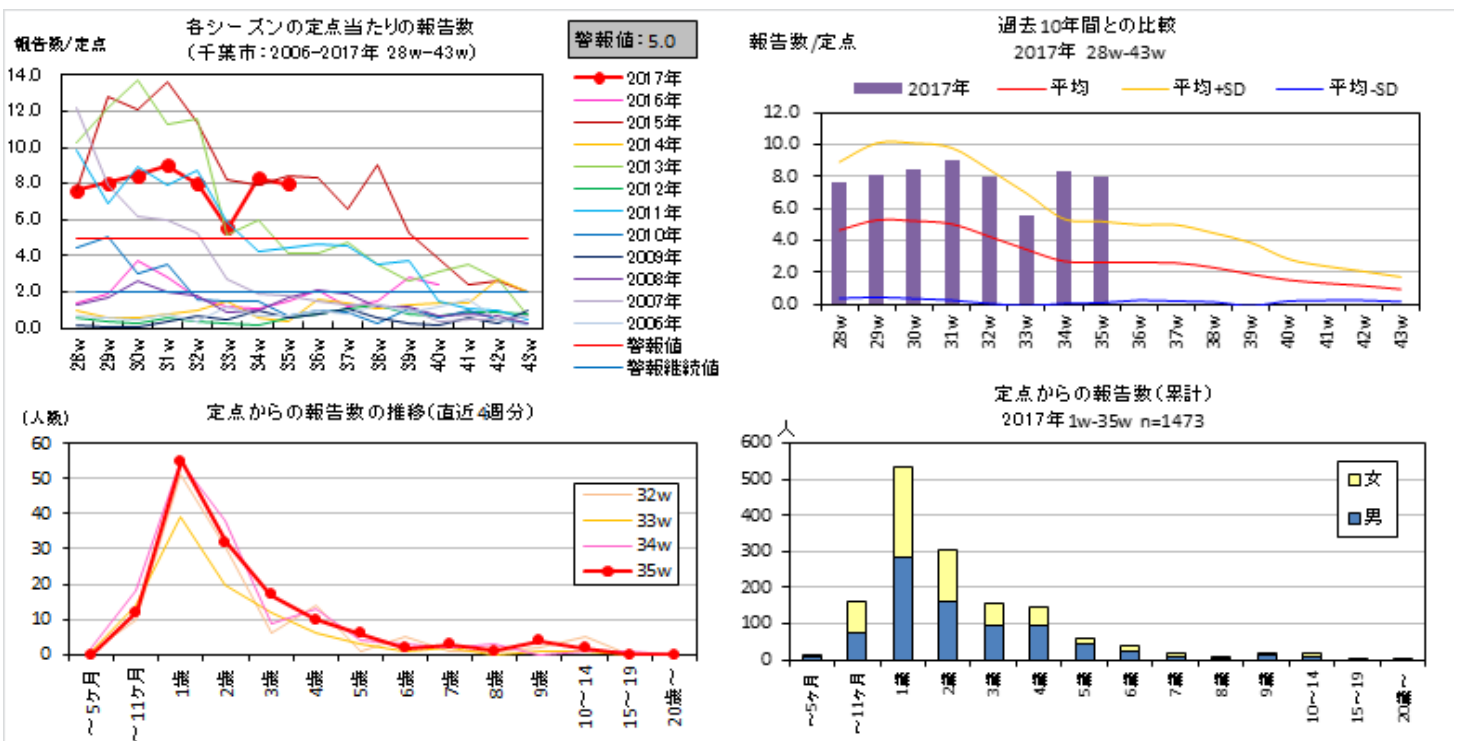
<RSウイルス感染症>

全国レベルでは第19週から過去10年の同時期と比べ最多のまま推移しており、第34週も同様で過去10年の同時期と比べると平均+2SDを大幅に上回り大変流行している状況となっています。都道府県別では徳島県、山形県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2017年第35週は前週より大幅に増加し2.67となり、2004年から調査を開始して以来最多となり、非常に大きな流行となっています。区別の発生状況は、緑区(5.0/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から2017年第35週までの累積報告数(n=339)によると、性別では男性が54.6%(185名)、女性が45.4%(154名)で、年齢階級別では1歳(37.8%:128名)、6~11か月(27.7%:94名)、0~5か月(17.7%:60名)の順に多くなっています。



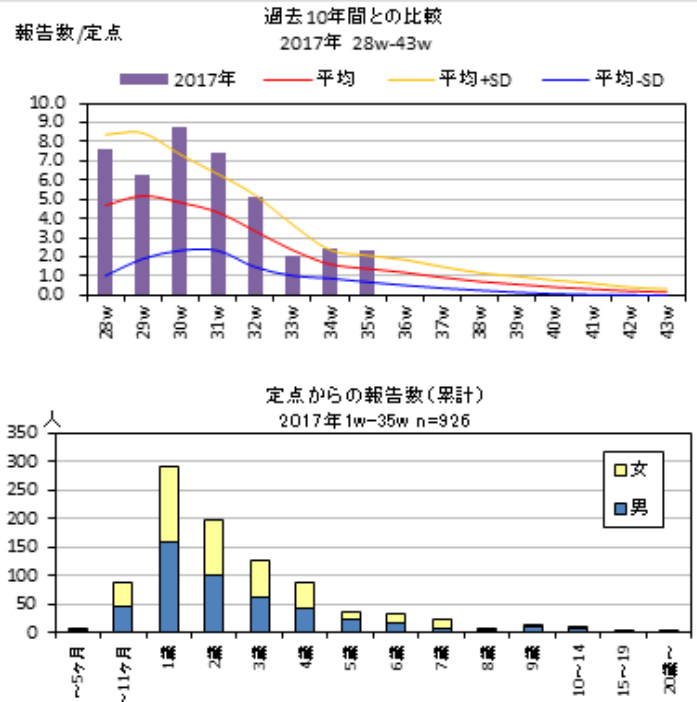
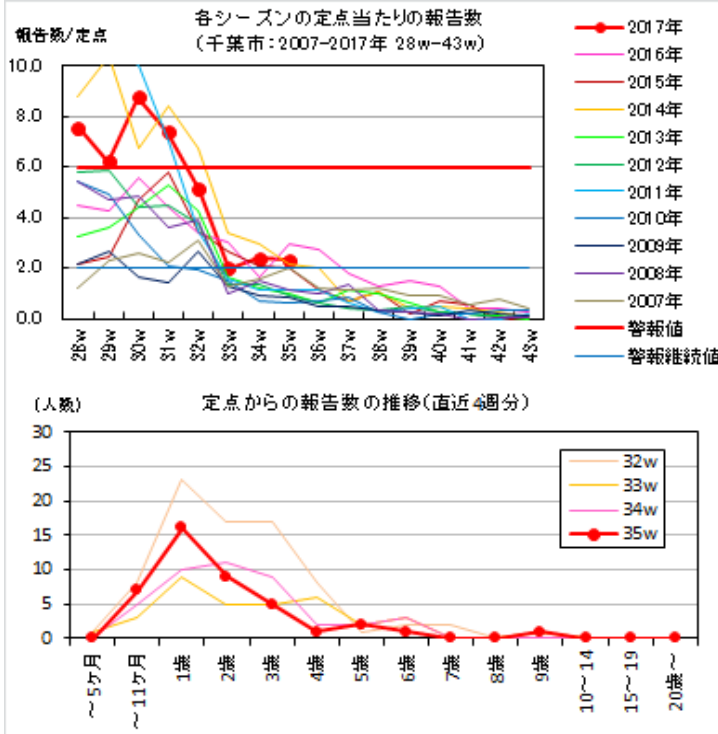
<手足口病>

全国レベルの第34週は前週より増加し過去10年の同時期と比べると最多となっています。流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままです。都道府県別では宮城県、福島県、長野県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2017年第35週は前週より若干減少し8.00となりましたが、流行発生警報開始基準値を上回ったまま、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、稲毛区(14.3/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。他に緑区、若葉区で流行発生警報開始基準値を上回っており、中央区で流行発生警報開始基準と並びました。2017年第1週から第35週までの累積報告数(n=1473)によると、性別では男性が54.9%(808名)、女性が45.1%(665名)で、年齢階級別では1歳(36.3%:534名)、2歳(20.8%:306名)、6~11か月(10.8%:159名)の順に多くなっています。



<ヘルパンギーナ>

全国レベルの2017年第34週は過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では山形県、宮崎県、福島県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べて多くなっています。千葉市の2017年第35週は前週より若干減少し2.33となりました。流行発生警報終息基準値(2.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(4.5/定点)で流行発生警報終息基準値を上回り最も多く、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。他に稲毛区及び中央区で流行発生警報終息基準値を上回っています。2017年第1週から第35週までの累積報告数(n=926)によると、性別では男性が51.8%(480名)、女性が48.2%(446名)で、年齢階級別では1歳(31.5%:292名)、2歳(21.5%:199名)、3歳(13.6%:126名)の順に多くなっています。



<流行性角結膜炎>

全国レベルの2017年第34週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では沖縄県、愛媛県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べて少なめとなっています。千葉市の2017年第35週は前週より増加し2.60となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、美浜区(7.0/定点)で最多で、同区の50歳代で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第35週までの累積報告数(n=118)によると、性別では男性が49.2%(58名)、女性が50.8%(60名)で、年齢階級別では30歳代(22.9%:27名)、40歳代(12.7%:15名)、50歳代(10.2%:12名)の順に多くなっています。

